

保健室だより

平成 22 年 7 月発行
大正大学保健室

夏はキャンプや山登りに、川遊びなどアウトドアが楽しい季節です。しかし、楽しみと背中あわせに危険もいっぱいです。 今月は、野山に限らず、都市でも多くの被害が報告されている「蜂刺され」を特集します。

東京消防庁管内では、平成 18 年から平成 20 年までの 3 年間で、蜂に刺されたことによる救急事故全体の人数は、約 1 千人を数えたと発表がありました。



●蜂にさされたらどうなるの？

蜂と聞くと、その鋭い毒針で刺され、毒が回って死に至ると思っている人も多いかもしれません、毒そのものが直接命に関わることはありません。

一般的には蜂にさされると、**刺された所が激しく痛み、赤くはれあがる**、などの局所症状が起こり、数日で治ります。

しかし、一部の人には、**アナフィラキシー**と呼ばれるショック症状が起こることがあります。

●アナフィラキシーとは？

ハチの毒や食物や薬などに対して起こる**急性のアレルギー反応**のことです。下記のような全身症状が起こります。

- ・**軽症**：全身の皮膚の赤みやかゆみ、またはじんま疹など。
- ・**中等症**：息苦しさ、胸の締めつけ感、吐き気や腹痛など。
- ・**重症**：血圧低下、呼吸困難、まれに死亡することも。

※ハチ毒によるアナフィラキシーは、**ほぼ 85% の割合で、15 分以内に起こります。**

初めてのハチ刺し事故でもアナフィラキシーを起こすことがあります。

また、前回刺された時は、局所症状でおさまっていたとしても、再度のハチ刺し事故でアナフィラキシーが起こることがあります。

●蜂に刺された！【対処法】

針が残っていたら直ちに取り除き、刺された患部を流水で洗い流し、冷やすようにします。そして、**アナフィラキシーかと思われる場合**や、少しでも様子がおかしいと感じる場合は、**救急車を呼ぶ！・直ちに受診する！など速やかに対処しましょう。**

アナフィラキシーではなさそうでも、あとから腫れることもあるので、一度、病院受診することをおすすめします。

●蜂に刺されないように！【予防法】

大切なことは、蜂に刺されないように予防することです。

- ①蜂の巣にはむやみに近づかない。
- ②臭いの強い化粧品・香水は蜂を刺激するので注意する。
- ③黒い色に対して攻撃性が強くなるので、身につけるものは、黒い色のものを避け、肌は露出しない。
- ④蜂が近づいてきたら頭を隠すように低い姿勢をとる。
- ⑤洗濯物を取り込むときに、蜂が紛れていないか確認する。

出典：見附市市役所 HP



出典：アナフィラキシー対策フォーラム HP